

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

(MS Word)

【氏名】 楠 和樹

【所属】 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

【研究題目】 ケニアにおける人獣共通感染症対策と統治の変容

【研究の目的】

近年、ケニア共和国を含むアフリカの各国では、人獣共通感染症への対策が策定、実施されている。人獣共通感染症とは、同一の病原体によって人間と非人間の動物の双方が罹患する感染症であり、鳥インフルエンザやエボラ出血熱などが含まれる。これらの感染症の存在は以前から知られていたものの、グローバル化による人間、動物、モノの移動の促進などを背景として、そのリスクに対する関心が高まっている。そうしたなかで、これらの感染症の対策において、人間と非人間の動物の生存と健康や、それらに関する知識—医学、獣医学、公衆衛生など—がどのように「もつれあっている (being entangled)」のかへの関心が、人類学者のあいだで高まっている。本研究では、ケニアで人獣共通感染症対策が策定され、実施される過程で、人間と非人間がどのように「もつれあっている」のかを明らかにするとともに、このプロセスを非人間を含む生き物の集合的な振る舞いを導くこととしての統治という視点から考察することを目的とする。

【研究の内容・方法】

以上の目的を遂行するために、人獣共通感染症の一種で、蚊によってウイルスが媒介されるリフトバレー熱 (Rift Valley fever) の対策に着目した。また、当初はケニア共和国北部の乾燥地域での現地調査を予定していたものの、以下に述べる理由によって牧畜民マサイが住民の多数を占める同国南部のカジアド (Kajiado)・カウンティ、とくにタンザニアとの国境に位置するナマンガ (Namanga) 市に調査地を変更した。

本研究の内容は、以下の二つに大別される。第一に、ケニアでこの感染症への対策が策定されている過程を検討した。近年同国では、人間と動物の健康の実現をめざす「ワンヘルス (One Health)」と呼ばれる概念に依拠し、FAO (国際連合食糧農業機関) や WHO (世界保健機関) などの国際機関と協力しながら、リフトバレー熱をはじめとする人獣共通感染症を予防し、検出し、対処するための体制が整備されている。ここでは、この感染症の対処に関連した制度や知識、そして専門家集団のあいだの境界線が、その過程でどのように調整されているのかを見ていった。具体的にはカジアド・カウンティの行政庁、とくにナマンガ市国境管理局の担当部局と、FAO と Kenya Red Cross の担当職員に聞き取り調査をおこなった。

第二に、リフトバレー熱対策が実施されている過程を検討した。一般的に人獣共通感染症に感染するリスクを減らすためには、ウイルスを媒介する蚊を制御したり、衛生的な環境で家畜を屠殺したり、生乳や肉など家畜の生産物を食べる前に熱処理したりすることが求められており、その対策のひとつとして行動変容を促すキャンペーン活動が実施される。本研究では、報告者がケニア滞在中に EAC (東アフリカ共同体事務局) によってナマンガ市で実施されたフィールド・シミュレーション・エクササイズを事例として、政府と住民、中央政府と地方政府、政府と国際機関、あるいは住民と家畜のあいだの関係がどのように変容つつあるのかを検討した。

【結論・考察】（４００字程度）

近年のエボラ出血熱、リフトバレー熱、マールブルグ病、そしてクリミア・コンゴ出血熱の流行を受けて、ケニアを含む東アフリカ諸国は国際機関や政府間機関との連携を強化しながら国境を越えた対策枠組みを整備しつつある。このイニシアティブの中心をワンヘルスという包括的な健康観が構成しており、分野やセクターの垣根を越えたアプローチが採用されていることで、Kenya Red Cross のように従来は動物感染症の問題を対象としてこなかった機関の関与を促進されていた。とくにナマンガ市はケニアとタンザニアの国境に跨る街で、人とモノの移動も活発であることから感染症対策上重視されており、人獣共通感染症に対する能力強化が目指されていた。この街で実施されたシミュレーション・エクササイズはリフトバレー熱の発生を想定したものであり、国境管理局、病院、屠畜場、地域コミュニティなどさまざまなステージで早期発見、検査、対応の能力が評価され、事前準備（preparedness）の意義が強調されていた。また、周辺に暮らす一部の牧畜民は今回のシミュレーション・エクササイズと数年前のリフトバレー熱の小規模な流行を受けて、家畜の健康をどのように管理し、対処するのかの対処を迫られていた。今後の調査では、家畜に対するケアの体制が変容するなかでどのような権力が働きつつあるのかを見極める必要があると考えている。